

福岡地区水道企業団議会が開会

7月3日、福岡市南区の水道企業団にて水道企業団議会が開会されました。これには公明党から山口議員・黒子議員が出席しています。

この議会は、福岡都市圏（8市8町1企業団）の議員の代表15名が、選任され行われます。

改選後初めてとなる第1回議会では正副議長や用水供給事業促進対策委員会の正副委員長を決定しました。



6月は降水量が少なかったため水不足が心配されていましたが、7月に入りまとまった雨が降った結果、各ダム群で、ほぼ満水の貯水容量となりました。これで今夏の福岡市の水不足は解消されました。これからも皆様のご協力をお願いいたします。

☆海水淡水化センターを調査

7月3日 用水供給事業促進対策委員会として山口議員と黒子議員は海ノ中道にある海水淡水化センターを視察しました。一日5万tを福岡市をはじめ福岡都市圏に供給している状況について説明を受け、更に施設設置後3年が経過したことで浸透膜管の更新状況を視察しました。



浸透膜の設置状況

☆水道ビジョン検討会スタート

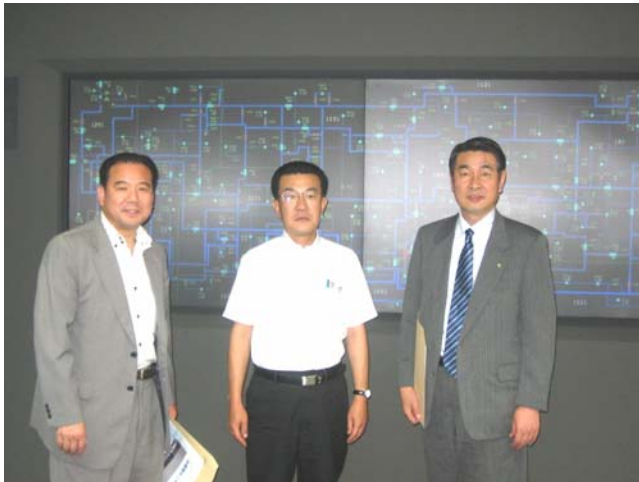
企業団では、今後15年間の事業運営の基本計画となるビジョンを議員や学識経験者の意見を踏まえ平成20年を目標に策定します。

「安心・安全・持続」できる水道事業を目指します。皆様のご意見・ご要望がありましたら山口議員までご連絡ください！

◇福岡市が目指す水道事業◇

○水管理センターを視察

昭和53年に水道局内に設置した水管理センターは、浄水場から蛇口まで、水の流れや水圧をコントロールする司令塔です。市内を21ブロックに分け24時間体制で常に変動する流量や水圧をリアルタイムで集中制御しています。



水管理センターのメインコントロールパネル

この施設は全国でも数少ない施設として運用される国内トップレベルとなっています。

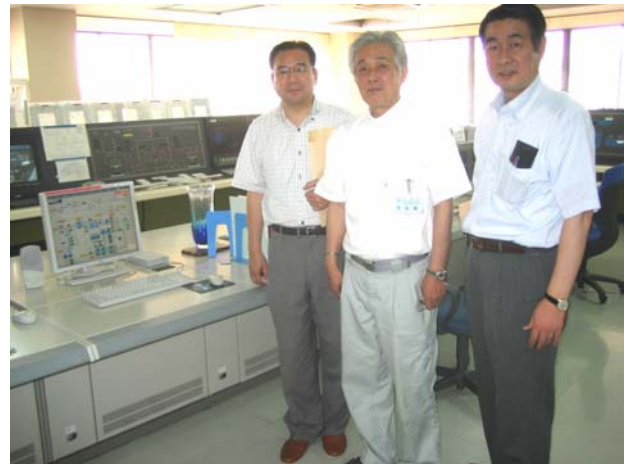
万一の火災発生時には、その地域の水圧を遠隔操作で増やすなど消火活動に支障をきたさないように運用されています。

○多々良浄水場を視察

安全でおいしい水を福岡市民に供給するため浄水場では高度浄水処理を行っています。



通常の沈殿やろ過式で除去できない有害物質などは、オゾン処理設備と粒上活性炭吸着処理設備を導入しています。



中央管理室では全ての稼動状況を把握し、水質を原水から排水まで一貫して監視・制御しています。

○長谷ダムを視察

福岡市の水道専用ダムとして整備された長谷ダムは高さ53.8m、貯水容量4850千 m^3 あります。このダムは多々良川の豊水事にポンプで水揚げして貯留するという全国でも珍しいダムです。水不足に悩む福岡市が考案しました。



ダム内部



ダム揚水場所

○多々良川に魚道が完成

水道局は魚と共存することも考えています。

